

私は、請願第 36 号の「町議会における常任委員会の傍聴を求める請願」、請願第 37 号「町議会定例会議の録画を、町のホームページで視聴できるように求める請願」、請願 38 号から第 44 号までのポートピアに関する請願に賛成の立場で討論いたします。

請願第 36 号については、狭いということが傍聴の許可ができない理由になっていますが、住民からの要求に、でき得る限り応える姿勢をとることが大切なのではないでしょうか。委員会の開催日をずらして開催することも、可能な選択ではないかと考えます。情報公開が求められている時代、何事もオープンにしていく方向に努めることが、町民の信頼に直結することだと思います。

また、請願第 37 号に関しては、国の政治にも地方の政治にも、一般市民が関心をもつようになった今、時代にあった当然の要望だと受け止めています。ホームページを充実して、町議会定例会のみならず、町長の交際費を明らかにしている自治体、市民の問い合わせに担当課がすばやく対応している自治体があります。

次に、ポートピアについて。

2 週間前、大分県の大分市に計画されていたポートピアが住民の反対により、業者が土地を取得したにもかかわらず、撤退するという形で、計画が白紙に戻りました。

また、2ヶ月前の 6 月 29 日には、隣の富山県の砺波市では、住民の反対請願が採択され、市議会として、ポートピア建設に反対する決議もなされました。その決議文には、市議会として、「これまでも、県内いくつかの市町村で誘致の動きがあるたびに、自治体や住民の反対によって建設が阻止されてきた経緯がある。もとより、庄川と散居に広がる健康フラワー都市をまちづくりの将来像として掲げる砺波市には、ふさわしくない施設と判断せざるをえない。緑豊かな生活環境に恵まれ、「青少年健全育成都市部宣言」された素晴らしい散居の地に、公営とはいえ、ギャンブル施設の建設は、時代を担う青少年の教育環境に悪影響を与えるほか、治安の悪化、交通量の増大による事故の増加や渋滞、周辺地域への公害問題等々、健全で文化的な市民のくらしが脅かされるのは必至である。よって、砺波市百年の大計に照らし、将来に禍根を残すポートピアの建設に反対することを決議する。」とあります。その議会の判断に対し、砺波市長は敬意を表するという言葉で評価しています。

この砺波市の議員たちはボートピア視察を行わなかったのでしょうか。いいえ、見て、確かめて、このような判断をしています。津幡町では、6ヶ所以上行った、何ヶ所も見てきた方もいらっしやって、どこも心配する施設ではなかった、懸念することはなかった。あるボートピアの2階にはスイミングプールもあったが、何の問題も起きていないと聞いたとも伺いました。

何が幸せなのか、豊かさとは何か、どういった生き方を求めるか、、、どういった視点で見るかによって、全く逆の判断が生まれることになります。

先月、中村議員や仲間の人たちと「ボートピア京都やわた」に行ってきました。そのボートピアはPTAや住民が大反対したにも関わらず4月にオープンしました。ずらり立ち並ぶガードマン、混雑する車、愕然としたのは、全国初というキッズルームでした。広々したへやには、子どもたちが喜びそうな遊具が置いてあります。「小さなお子さま連れのファミリーも安心してレースをお楽しみいただけます」というキャッチフレーズで、家族ぐるみで取り込もうとしています。幼い頃から馴れ親しみ、ギャンブルが健全であるというイメージを知らず知らずうえつけ、将来のギャンブル人口の拡大をも図る施設だと感じました。

昨年9月にオープンした習志野では、来場者が予定の半数で売上げも少なくなり、習志野駅周辺ではこれまでに女性がボートピア来場者らしき人から金銭を要求されたり、「一緒にボートピアに行こう」としっこくつきまとわれるなどの事件が多発している。と、市議会議員の通信報告にあります。

ボートピアは、子どもたちに自慢できる施設でしょうか。中学生、高校生のわくワーク体験を実施できる施設になるのでしょうか。

お隣のかほく市では、ボートピア進出については、既に、油野市長は財政面のメリットも考えられるが、デメリットとして市民が安心して暮らせる環境を阻害する恐れがある、ひいてはかほく市の定住化、人口増加策が促進できないとして、「青少年教育への悪影響が心配されるだけでなく、交通渋滞など、市民生活の環境が悪化する恐れ」や「かほく市の大きなイメージダウンになる」と議会で答弁されています。

今日の新聞には、津幡町の有力企業である白山工業が、そのかほく市に企業進出という記事がありました。かほく市では、社会情勢の変化に伴い、工場・

商業用地として用途を変更、市長も可能な限りの支援を約束したとありました。関係者の話によりますと、白山工業としては、なんとか津幡町に新工場を建設したいとの意向で以前から町に相談していたが前向きな姿勢がなかったとのことでした。

町長の言葉によりますと、ポートピアは資本のいない企業誘致であると繰り返されますが、津幡町にとってマイナスになる面がいかにか、大きいかを、取り返しが見つからないことのないように、今一度再考する必要があります。

津幡町にポートピアがくることで誰が幸せになるのか。ポートピアが津幡町の財政難を解消する切り札となり得るのか。子どもたちが行ってはいけない施設、高齢者の懐を狙う施設、自然環境を悪化させる施設、そのポートピアで得る環境整備費をあてにして、「教育・福祉・環境」分野への基金としたいという町の考えの根本に矛盾があると思います。

真に町を活性化させるものは何かが問われています。ギャンブル施設の受け入れについて、正しい情報のもとに、町として、一度でも住民の意思を問いかけたことがあったでしょうか。地元同意の取り方について調査したでしょうか。

ポートピアが、津幡町の将来に関わる大きな問題であることは間違いありません。ポートピア反対の有権者の14、561の過半数の署名が民意でないのなら、ここであらためて民意を問うべきではないでしょうか。本当に町民が望んでいるかどうか、賛成か反対か、住民の意思を問うこと、住民投票で問うことが必要であることを訴えて、私の賛成討論といたします。